

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

友達に誘われ雨の中 1時間40分 並んで買ったら100万円に当せん

神奈川県の主婦I子さん(48)は20年来の女友達と、年末に久しぶりに会うことになったが、彼女は根っからの宝くじファンで「どうせ会うなら銀座で会って、西銀座チャンスセンターと一緒に年末ジャンボ宝くじを買いましょうよ」と誘われてしまった。I子さん自身も宝くじはときどき買っており「いいわよ」とすぐに同意。

約束の日は日曜日。朝からあいにくの雨。

時間通りに有楽町で出会い、彼女の言うとおり、一番窓口で買う人の列の最後尾に並んだ。寒い中、2人で話し込みながら待つこと1時間40分。ようやく窓口にたどりつき、彼女と同じように、Iさんも第633回全国自治宝くじをバラで20枚購入した。

帰宅後はテレビの上の小物入れに保管して抽せんを楽しみにしていたI子さん。年が明けて、当せん番号調べをした結果、1枚が3等の100万円に当せん。とたんに、雨の中、長時間、並んで待った買った苦労はどこへやらで大喜び。賞金の使途について「まず、ブランド品をかうでしょう」と笑顔で語るI子さんだった。



ご当地クーちゃん
コウノトクーちゃん

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

「決心買い」と「仕方なく買い」 と「間違えられて」の人に高額が

人いろいろ、買い方いろいろだが、結果が大当たりで「めでたし！」というお話。

決心買い 東京都の会社員Gさん(52)はサマージャンボ宝くじ(第624回全国自治宝くじ)購入に際し、仕事のついででもあり「秋葉原でかう」と決めて家を出た。決意通り、JR秋葉原駅の昭和通り口そばの売り場で50枚を購入したら、3等100万円に当せんした。

仕方なく 北海道の主婦T子さん(39)はオータムジャンボ宝くじ(新市町村振興・第630回全国自治宝くじ)購入に際し、バラのセットをかうと思って売り場へ出かけたが「バラ」はすでに売り切れ。仕方なく「連番」を買ったら3等100万円に当たった。

間違い 埼玉県の会社員Sさん(41)は宝くじ売り場の窓口で「ドリーム10をください」といったのに、聞き違えたらしくドリームジャンボ宝くじ(第641回全国自治宝くじ)を渡された。そのまま帰宅して、後悔しつつも「もしかしたら…」と思っていたら、うれしや1等の前賞の500万円に当せんした。



ご当地クーちゃん
メジロクーちゃんどめじろん